

3年ぶりの東京公演、開催決定 & 初のクラウドファンディング実施

チェルフィッチュ×金氏徹平 『消しゴム山』

2024年6月7日(金)～9日(日) 世田谷パブリックシアター



画像一式：<https://x.gd/7Pziv>

お問い合わせ

株式会社precog（プリコグ） 担当：水野恵美、遠藤七海

MAIL：chelfitshticket@gmail.com

TEL：03-6825-1223（平日10:00～17:00）

FAX：03-6421-2744

3年ぶりの東京公演、開催決定

東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市。津波被害を防ぐ高台の造成工事は驚異的な速度で風景を人工的に作り変えつつあった。岡田利規がその光景を目撃したことから構想された「人間的尺度」を疑う作品は、彫刻の領域を拡張し続ける美術家・金氏徹平をコラボレーターに迎え『消しゴム山』として実現した。

2019年10月に京都で世界初演を迎えた『消しゴム山』は、コロナ禍による影響を受けながら、ニューヨーク(2020)、東京、ウィーン、パリ(2021)と上演を行ってきた。それから3年、世田谷パブリックシアターでの上演が決定。世界的なパンデミック、自然災害、戦争・・・我々を取り巻く様々な環境が急速に変化する2024年の東京に、『消しゴム山』は今、何を問いかけるのか。チェルフィッチュのこれまでの方法論を刷新する意欲作かつ問題作を、3年ぶりに東京で再演する。



陸前高田の造成工事



東京公演(2021) 撮影: 高野ユリカ



東京公演(2021) 撮影: 高野ユリカ

さまざまな人に作品をひらく取り組み

本作の「人間的尺度」を疑うというコンセプトは、新型コロナウイルスという人間の手には負えない脅威を目の当たりにした今、よりリアリティをもって身に迫るものとなった。世田谷パブリックシアターという大きな劇場での公演機会を得た本公演では、鑑賞サポートの拡充等により、より多くの人と本作のコンセプトを共有し、ともに考える機会を目指す。

< 鑑賞サポート・実施イベント一覧 >

○開演前の作品解説会【全公演】

開演前にロビーにて『消しゴム山』作品解説を実施いたします。

○上演中ウィスパリング歓迎の回【6月8日(土)13:00回】

視覚障害のある方やお子様など、観劇中に舞台上でなにが起こっているのかの説明を受けながら観劇したい方にも気兼ねなくご観劇いただくために、この回は上演中のウィスパリング(舞台上の様子を耳元で解説する)を歓迎します。

*この回では、以下のサポートを実施します:

- ・ 駅からの送迎
- ・ 上演前タッチツアー (6月8日(土)13:00公演のチケットをお持ちの方のみ)

視覚障害のある方を対象に、開演前に舞台美術を中心とした今回の公演のコンセプトを感じることができる「タッチツアー」を開催いたします。



京都初演タッチツアーの様子

○鑑賞マナーハードル低めの回【6月9日(日)13:00回】

客席でジッと静かに座っていることは観劇の基本的なマナー。でもそれが観劇のためのハードルに感じられてしまうこともあります。「子供がおしゃべりしちゃうかも」「障害があって上演中に休憩したくなるかも」など、演劇は観たいけど心配なことがあるという方にも気兼ねなくご観劇いただくために、この回の客席では鑑賞マナーを少しだけゆるくすることにしました。



東京公演(2021) 鑑賞マナーハードル低めの回
撮影: 高野ユリカ

- | | |
|---------------------|-----------|
| ○日本語・英語字幕(舞台上オープン) | ○筆談対応 |
| ○車椅子エリア | ○通路側座席予約 |
| ○託児サービス(2,200円) | ○補助犬 同伴受入 |
| ○障害者割でご予約の方 介助者1名無料 | |

初のクラウドファンディング実施

本公演ではチェルフィッチュ初のクラウドファンディングを実施する。

これまで、公演のアクセシビリティやワークショップ、映像配信等を通して様々な人へ作品をひらく取り組みを行ってきたが、今回はクラウドファンディングを通じた演劇との新たな出会いの場を創出する。

岡田・金氏コメント——クラウドファンディング実施にあたって

作・演出 岡田利規(演劇作家・小説家・チェルフィッチュ主宰)

『消しゴム山』を上演するというのは実は、世界・社会・人類が現在直面している問題の数々はそれらが『消しゴム山』的ノリで営まれさえすればただちに消え去るであろう、という巨大な妄想のもとになされる企みです。

そのような演劇作品——そのような作品だからこそ——をチェルフィッチュが発表すること／発表し続けていくことが持ちうるささやかな力に賭けています。

セノグラフィー 金氏徹平(美術家・彫刻家)

世界を1から作ることは想像するのも難しいことですが、今ある世界に別の視点を投げかけることであればなんとかできるのではないかな？

しかしながらやはり途方もなく難しいことではあります。そこに立ちはだかる巨大な矛盾、強力な既成概念は世界の問題そのものかもしれません。

ある意味、今ある世界と相入れない「消しゴム山」に対して、全てのスタッフや俳優は関わり方を見つけることはそれぞれに大変な作業でした。

この作品を今ある世界に存在させるためには、作品を経験すること、またはクラウドファンディングによって参加することも大きな役割を担っていると言えるでしょう。

<支援の主な用途>

- ・公演開催経費
- ・クラウドファンディング実施経費
- ・開演前の作品解説会【全公演】
- ・アフタートーク【6月8日(土)18:00回 終演後】
- ・鑑賞サポート
- ・チェルフィッチュの今後の活動に活用

クラウドファンディング概要

期間:2024年4月8日(月)17:00~7月1日(月)23:59

目標金額:200万円、All-in方式(支援金の金額にかかわらず公演は実施されます。)

詳細: <https://motion-gallery.net/projects/eraser-mountain2024>

公演に向けたコメント・プロフィール

岡田利規（作・演出／演劇作家・小説家・チェルフィッチュ主宰）

その上演の届け先が、いま・ここ、ではない。

そのような演劇をつくる必要性に駆られて、金氏徹平氏ほか参加メンバーすべてのセンスの結集として、チェルフィッチュは『消しゴム山』をつくりました。

『消しゴム山』は、はてしない未来に向けて、人間を越えて、放射する演劇です。



©宇壽山喜久子

その手法における言葉と身体の特徴的な関係が注目され、2005年『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞を受賞、同年7月『クーラー』で「TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2005一次代を担う振付家の発掘一」最終選考会に出場。2013年に演劇論集『遊行 変形していくための演劇論』（河出書房新社）を刊行。2016年からはドイツの公立劇場レパートリー作品の作・演出も継続的に務める。2020年『掃除機』（ミュンヘン・カンマーシュピーレ）および2022年『ドーナ（ッ）ツ』（ハンブルク、タリヤ劇場）でベルリン演劇祭（ドイツ語圏演劇の年間における“注目すべき10作”）に選出。タイの現代小説をタイの俳優たちと舞台化した『プラタナー：憑依のポートレート』で第27回読売演劇大賞・選考委員特別賞を受賞。能のナラティブの構造を用いた『未練の幽霊と怪物 挫波／敦賀』（KAAT神奈川芸術劇場）で第72回読売文学賞・戯曲・シナリオ賞及び第25回鶴屋南北賞受賞。2021年には『夕鶴』（全国共同制作オペラ）で歌劇の演出を手がけた。小説家としては、2007年に『わたしたちに許された特別な時間の終わり』（新潮社）を刊行。第2回大江健三郎賞受賞。2022年に『プロックリーレボリューション』（新潮社）で第35回三島由紀夫賞および第64回熊日文学賞を受賞。

金氏徹平（セノグラフィー／美術家・彫刻家）

“不安もしくは不安定な時代”という言い方がありますが、僕の知っている限りでも歴史的にも、そうでなかった時など一瞬も無かったのではないかと思います。

この数年で人類が共通して経験している、もしくは目撃している事態はそれまでの時間や空間、人間とそれ以外の関係についての認識を変化させるのに十分なインパクトがあったことは認めざるをえませんが、やはり今でも同じようにずっと世界はひっくり返り続けてもいます。

そして、この早過ぎた傑作はどこに着地するのか？もしくは漂い続けるのか？恐ろしくも楽しみです。

人間もしくは自分以外の時間の存在について考える、人間もしくは自分に向かっていないものと関係を作るという初めから矛盾を抱えた試みが、新たな火種にも、新たな調和への糸口にもなり得る作品だと自負しています。



既存の事物を収集し、オルタナティブな価値や視点によって再構成するコラージュ的手法を用い、彫刻を中心とし、写真、映像、舞台美術、パフォーマンスなど多様なメディアにより作品を制作する。一貫して物質とイメージの関係を顕在化する造形システムの考案を探索している。主な個展として「S.F. (Something Falling/Floating)」市原湖畔美術館（千葉、2022）、「金氏徹平のメルカトル・メンブレン」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川、2016）、「Towering Something」Ullens Center for Contemporary Art（北京、2013）、「溶け出す都市、空白の森」横浜美術館（神奈川、2009）など、その他、国内外での多数の展覧会に参加。「家電のように解り合えない」あうるすぽっと（東京、2011）に始まり、岡田利規、チェルフィッチュとのコラボレーションも多数。『tower（THEATER）』（ロームシアター京都、KYOTO EXPERIMENT 2017）では、自身の映像作品を舞台化した。

現在、京都市立芸術大学美術学部彫刻科准教授。

金氏徹平ウェブサイト：<https://teppeikaneuji.site>

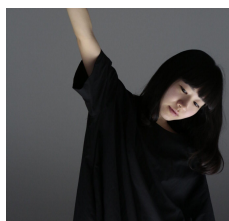
チェルフィッチュ

岡田利規が全作品の脚本と演出を務める演劇カンパニーとして1997年に設立。2007年クンステン・フェスティバル・デザール（ブリュッセル、ベルギー）にて『三月の5日間』を上演、初めての国外進出を果たす。以降、アジア、欧州、北米、南米あわせて90都市以上で作品を上演し続けている。フェスティバル・ドートンヌ・パリ（フランス）、ウィーン芸術週間（オーストリア）など世界有数のフェスティバル・劇場の委嘱および国際共同製作による創作も多数。

近年は、スクリーンに投影された映像が人の感覚に引き起こす作用によって展示空間を上演空間へと変容させる試み〈映像演劇〉を舞台映像作家・山田晋平氏とともに始動、2018年に演劇公演／展覧会『渚・臉・カーテン チェルフィッチュの〈映像演劇〉』（熊本市現代美術館）を発表。

2021年からは、「ノン・ネイティブ日本語話者との演劇プロジェクト」を始動し、日本語を母語としない俳優を対象としたワークショップを実施、2023年に演劇作品『宇宙船イン・ビトゥイーン号の窓』を発表。

出演者プロフィール



©篠山紀信

青柳いづみ

チェルフィッチュ、マームとジプシー両劇団を平行し国内外で活動。
漫画家・今日マチ子との共著『いづみさん』（筑摩書房）発売中。
朗読で参加している詩人・最果タヒの詩のレコード『こちら99等星』（リトルモア）、K-BALLET
オプト×最果タヒ『シンデレラにはなれない』配信中。



安藤真理

2006年兵庫のAI・HALLにて岡田利規ワークショップ&パフォーマンス『奇妙さ』に参加。以降、
2008年『フリータイム』、2009年『記憶の部屋について』（金沢21世紀美術館「愛についての100
の物語」）、『ホットペッパー、クーラー、そしてお別れの挨拶』、2011年『家電のように解り
あえない』、2016年『部屋に流れる時間の旅』ほかに出演。西山真来監督『手と心が一致してい
ない』出演。



©佐藤陽友

板橋優里

1993年宮城県生まれ、仙台市在住。近年の主な出演作品は、チェルフィッチュ『三月の5日間』リ
クリエーション（2017～2019）、ぱぷりか第4回公演『きっぱ』（2018）、美術手帖×VOLVO ART
PROJECT 小田尚稔の演劇『善悪のむこうがわ』（2019）、チェルフィッチュ×金氏徹平「消しゴ
ム山」、「消しゴム森」、「消しゴム畑」（2019～2021）、太田信吾監督「想像」（2021）、木
ノ下歌舞伎『桜姫東文章』（2023）。



原田拓也

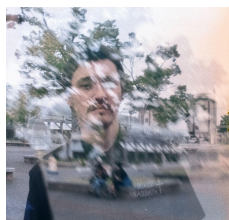
1981年大阪府生まれ。
嵯峨美術短期大学卒業。



©洲野修平

矢澤誠

1972年、福島県生まれ。フリーランスで活動している。これまでに、NODA・MAP、宇宙レコード、
ニブロール、カムカムミニキーナ、安藤洋子プロジェクト、遊園地再生事業団、カンパニーデラ
シネラ、オフブロードウェイミュージカル『リトルショップ・オブ・ホラーズ』などに出演。
チェルフィッチュには『私たちは無傷な別人である』、『スーパープレミアムソフトWバニラリッ
チ』、『リビングルームのメタモルフォーシス』などに出演。



米川幸リオン

1993年生まれ。三重県鈴鹿市出身、京都市在住。京都造形芸術大学映画学科俳優コースと映画美
学校アクターズコースを卒業。チェルフィッチュ／岡田利規の作品には、『三月の5日間』リク
リエーション、市民と創造する演劇『階層』、『宇宙船イン・ビトゥイン号の窓』等に参加。
その他の出演作品に、小森はるか＋瀬尾夏美『二重のまち／交代地のうたを編む』、カナリアー
ズ『ガガたち』、東葛スポーツ『相続税¥102006200』など。また、映画を中心に創作活動も行
なっている。近作に『あっちこっち、そっちどっち』、『（あるいは）限界ニュータウン』、
『つちのちのちうち』など。

公演概要

チェルフィッチュ×金氏徹平『消しゴム山』東京公演(2024)

詳細：<https://www.keshigomu.online/performance/information>

日程

2024年

6月7日(金) 18:30開演

6月8日(土) 13:00開演☆／18:00開演*

6月9日(日) 13:00開演★

☆上演中ウィスパリング歓迎の回

*終演後、アフタートーク

★鑑賞マナーハードル低めの回

上演時間：2時間30分（休憩なし）

日本語上演、日本語・英語字幕

会場

世田谷パブリックシアター 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4丁目1番地1号

チケット

全席指定席

一般：S席 ¥5,000／A席 ¥4,500

29歳以下（入場時要証明）：S席 ¥4,000／A席 ¥3,500

18歳以下（入場時要証明）：S席 ¥2,000／A席 ¥1,500

障害者割（介助者1名まで無料、入場時要証明）：S席 ¥3,500／A席 ¥3,000

当日券（座席に関わらず）：一般5,500円、29歳以下4,500円、18歳以下2,500円、障害者割引4,000円

チケット取扱

・世田谷パブリックシアターオンラインチケット（24 時間受付・要事前登録・障害者割引チケットの取扱なし）

<https://setagaya-pt.jp>

・世田谷パブリックシアターチケットセンター

（電話・窓口 10:00~19:00 *発売初日は電話のみ・障害者割引チケットの取扱あり）

TEL 03-5432-1515

クレジット

作・演出：岡田利規 セノグラフィー：金氏徹平

出演：青柳いづみ、安藤真理、板橋優里、原田拓哉、矢澤誠、米川幸リオン

衣裳：藤谷香子 (FAIFAI) 照明：高田政義 (RYU) 音響：中原楽 映像：山田晋平 技術監督：鈴木康郎 舞台監督：湯山千景、川上大二郎

演出助手：和田ながら 英語翻訳：アヤ・オガワ プロデューサー：水野恵美 (precog)、黄木多美子 (precog)

広報・プロダクションマネージャー：遠藤七海 票券：堀朝美 企画制作：株式会社precog

宣伝美術：有佐祐樹

写真（メインビジュアル）：守屋友樹

広報ライティング（クラウドファンディング）：山崎健太

特設ウェブサイト制作：HAUS

製作：一般社団法人チェルフィッチュ

共同製作：〈消しゴム山〉KYOTO EXPERIMENT、Wiener Festwochen、Festival d' Automne à Paris、Künstlerhaus Mousonturm Frankfurt 〈消しゴム森〉金沢21世紀美術館

*本プロジェクトは、『消しゴム山』（初演：2019年10月KYOTO EXPERIMENT）、『消しゴム森』（初演：2020年2月金沢21世紀美術館）の両バージョンからなる。

主催：一般社団法人チェルフィッチュ

提携：公益財団法人せたがや文化財団 世田谷パブリックシアター

後援：世田谷区

助成：芸術文化振興基金助成事業、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京【東京ライブ・ステージ応援助成】、公益財団法人全国税理士共栄会文化財団

協力：コネリングスタディ／山吹ファクトリー、急な坂スタジオ、京都市立芸術大学、公益財団法人セゾン文化財団

京都芸術センター制作支援事業

チェルフィッチュ precog

公益財団法人セゾン文化財団



芸術文化振興基金



ARTS COUNCIL TOKYO